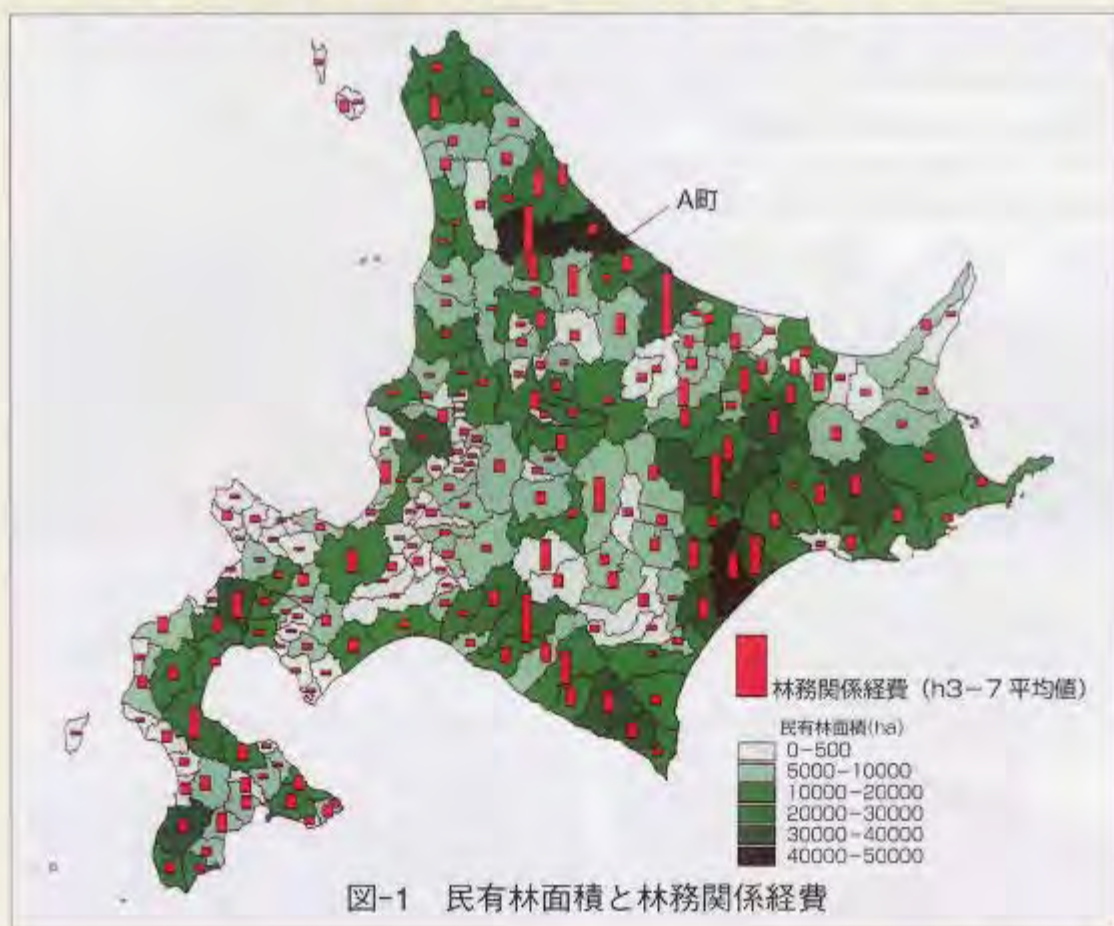


膨大な情報も瞬時に理解できるGIS



GIS（地図情報システム）は地図と調査簿をコンピュータ上で組み合わせ、広域の森林情報を整理整頓してわかりやすく提供する方法です。そこで林業試験場では道有林および一般私有林の地図入力をはじめ、全道レベルのデータベースの整備など実用化に向けた研究を進めています。

一例を示すと、図-1は市町村アンケートなどから市町村別の私有林面積と平成3～7年度に投資された林務関係経費の平均値との関連を示したものです。両者には図-2のような相関関係がありますが、例えばA町などの市町村は私有林面積が少ないにもかかわらず多額の資金が投入されていることが分かります。従来、これらの情報は表だけで示されていましたが、視覚に訴えるGISの特徴を活かすことにより格段に受け手の理解が深まります。道庁各課を始め、様々な機関が持つ情報を総合的に扱うことにより、政策支援や地域住民との合意形成のツールとして活用が期待できます。

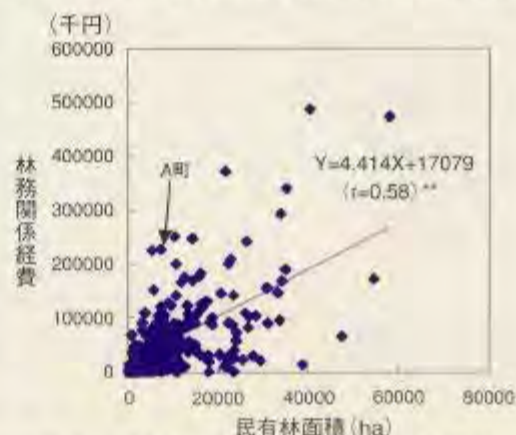


図-2 私有林面積と林務関係経費の関係